

一平のロシア便り

第1回 モスクワ生活

私は2014年4月よりモスクワ支店駐在員としてロシア連邦の首都モスクワにて勤務しています。その意味では私の駐在員としての生活はまだ1年にも満たないわけですし、そんな私が駐在員生活を語っていいものかという気もしますが、約9か月間で感じたありのままを今回はつづってみようと思います。



モスクワ赤の広場

モスクワで暮らすということ

在ロシア日本大使館による調査(※直近では2013年が最新)によれば、モスクワの在留邦人数は1,700名弱とのことです。2014年はさらに増えているとは思いますが、私もその一人としてモスクワ生活を送っています。ちなみにモスクワ市の人口は1,211万人ということで、日本人は1%もいないわけです。

さらに大使館の調査結果を見ていきますと、モスクワの在留邦人の70%以上は民間企業関係者(ご家族含む)だそうです。かっこよく言えば私も世界で最も広いロシアの首都モスクワで奮闘する企業戦士の端くれということでしょうか。

参照 (在ロシア日本大使館 HP) :

<http://www.ru.emb-japan.go.jp/japan/JVISANDTOURIZM/2013/20131114.html>

2014年3月のクリミア問題をきっかけにロシアを取り巻く状況は大きく変化し、来る2015年も厳しい状況にはあるものの、ロシア市場のもつ潜在性は依然大きく、当地で仕事をされる日本人の方もさらに増えていくのではないのでしょうか。

ロシアというと、たいていの方は「怖い(プーチン大統領の強面もまた一因?)」「寒い」「物がなさそう(ソ連末期の空っぽの商品棚のイメージ?)」というどちらかというとネガティブなイメージを持たれる方が多く、駐在前の異動のあいさつの際に「モスクワ勤務です」と話をすると「えらく大変なところに行かれるのですね・・・」というコメントを頂く事もよくありました。もちろん日本(東京)の暮らしと比較すれば当地モスクワでの暮らしは大変ではありますが、多くの方がお持ちのイメージとは異なるのもまた事実です。

モスクワで暮らしてみても

私自身は 2005 年から 2 年間、海外研修生としてロシアでの生活の経験(サンクトペテルブルグ、モスクワ各 1 年)があったため、駐在員としての勤務は今回が初めてではありますが、ロシアでの生活は 7 年ぶりということになります。そんな中で多くの方がロシアに対して抱くイメージに対しての私自身が感じたイメージをお伝えしたいと思います。

① ロシアって怖い？



モスクワのうどん店前

ロシア(もしくはロシア人)というとソ連時代のいわゆる「冷戦時代の敵陣営」という歴史もあり、「近くて遠い存在」、「決して外国人に笑顔を見せない」というイメージがあるかもしれませんが、決してそんなことはありません。確かに東京から首都モスクワまでは直行便で約 10 時間かかり、遠い土地であります。一方極東最大の都市ウラジオストックまでは東京から 3 時間もかかりません。その意味では日本海を挟んだ隣国、近い国でもあるのです。世界最大の国土を持ちヨーロッパとアジアの 2 つにまたがるロシアは自らを「ユーラシア」と称するなど、

ユニークな存在なのです。

そんなロシアに住むロシア人は実は非常に親日的です。昔であれば車や家電といった日本製品、そして今は日本食やマンガといった日本文化はロシアではすっかり一般的なものとなっています。かくいうプーチン大統領も柔道を通じて日本文化を高く評価するロシア人の一人です。実際、モスクワでは日本食レストランは(もどきを含めれば)数え切れないほど存在するほどです。私自身、モスクワの街を歩いていたりしても普通の市民から「日本人か?」と突然聞かれたり、赤の広場で出張者を案内していたところ、突然ロシア人の若い女性グループから「一緒に記念写真を撮ってほしい」と言われて面食らった事もありました。

また、ロシア人との関係を構築するのに大切な役割を果たすのが「お酒」です。ロシア人は酒を酌み交わしながら胸襟を開いた会話をする事を好みます。仕事柄ロシアの企業を訪問することも多いのですが、大都会モスクワではさすがにないものの、地方へのお出張などでは面談・工場見学後、たいてい初めて訪問した我々をウオッカとたくさん



職場の仲間と

の料理でもてなしてくれます。そして大いに飲み・語らいながら関係を作っていくのです。そして帰る際には「また来いよ」と言ってくれるのです。日本のビジネスにおいても接待という文化が存在するくらいですから、このロシア人のウエットな人間関係は我々日本人にもきつとじっくりくるものと思います。

確かにモスクワの空港に降り立って入国審査を受ける際に不愛想な態度をする係官や強面のロシア男性を見ると「やっぱりロシアって怖い」と感じたりするかもしれませんが、ちょっと話をすれば実は人間臭い面を見せてくれる人たちなのです。

② ロシアって寒い？



オフィスから臨む市街

これはさすがに否定のしようがありません。寒いのは紛れもない事実です。モスクワでも冬の最低気温は-10℃を下回り、厳寒の冬は長く続きます。朝目覚めても外は真っ暗、出勤(朝8時台)してもオフィスの外はまだ暗いままで。また、夕方は16時台から暮れ始めることから外出が無く一日中オフィスで勤務しているとまったく陽の光を浴びずに一日が終わることも珍しいことではありません。その意味では過酷な環

境とも言えるかもしれません。その代りといっはなんですが、太陽の光のありがたさ、雪解けが始まり、冬の終わりと春の訪れ、そして芽吹き季節の到来の喜びを感じられるようになります。日本にも四季は存在しますが、より過酷な環境に身を置くことでより自然に対する感受性が高まるように感じられます。ですからロシア人は短い夏を楽しみ、思いつき太陽の光を浴び、女性もこんがり肌を焼くのです。ロシアでは「よく日に焼けているね」という言葉は褒め言葉になるのです。ちなみに意外かもしれませんが、モスクワでも夏になれば気温30℃超えは普通です。

なお、ロシアの住居では通常セントラルヒーティングが採用されており、室内にいる分には全く寒さとは無縁です。その意味では東京の方が冬の室内は寒いかもしれません。

③ ロシアって物が無い？

「モスクワって普通に都会だね」、「モスクワって何でもあるんだね」。これは出張で当地モスクワを初めて訪れた出張者がたいてい言うコメントです。やはりソ連末期の物不足、そしてソ連崩壊後の新生ロシアのハイパーインフレ(70倍とも…)の記憶が強いのか、未だにロシアは物が無いと思われるかもしれませんが、そんなことはありません。

ん。ただし「値段を気にしなければ」という条件がつきます。街を歩けば高級ブランドの広告も至る所で見かけ、マクドナルドやケンタッキー・フライド・チキン、スターバックスもすっかり当たり前の光景となっており、ヨーロッパ資本の大型スーパーも数多く出店しています(実は **IKEA** も日本より先にロシアに出店しているのです)。市内の道路を見てもメルセデス・ベンツや **BMW**、アウディが当たり前に走っています。ポルシェの SUV「カイエン」も個人的には東京よりモスクワの方がよく見る気がするくらいです。つまり、物はある、高いものであってもそれを買うことができる消費者層が存在するのは紛れもない事実なのです。

もちろん、街を歩けば今も道路で跪いて物乞いをする人(主に老人)やホームレスを見かけることはありますが、その姿は7年前の研修生時代の頃に比べて大幅に減ったように思われます。スーパーで買い物をしていてもカートいっぱいに物を詰めてレジで行列をする様子を見るのは当たり前の景色ですし、地下鉄(なんと無料で **Wi-Fi** が利用可能)に乗っていても車内でスマホやタブレットを(若者だけでなく年配の方も)見る様子は東京と何ら変わりありません。日本から1か月遅れではありましたが **iPhone6** も販売されています。物が無いと思っていたなんてロシア人に話したらきっと笑われてしまうでしょう。

そんな感じでロシアに対して日本の方がともすれば抱きがちなイメージと実際は全く違うということがお分かり頂けたかと思います。ロシアと関係の深い人間ゆえの思い入れが若干入ってしまっているかもしれませんが、これが体験を通じて素直に感じたところです。

(つづく)